

10/7(金)~11/6(日)

八代市立博物館未来の森ミュージアム

市立博物館未来の森ミュージアム・北九州市立いのちのたび博物館共同企画
開館15周年記念・平成17年度秋季特別展覧会 八代の歴史と文化15

「大名細川家」

文と武の軌跡

主催 八代市立博物館未来の森ミュージアム・熊本日日新聞社
協力 財団法人永青文庫・北九州市立いのちのたび博物館



からものちゃいれ りきゅうしり
唐物茶入 利休尻ふくら
中国・南宋～元時代(13～14世紀)
財団法人永青文庫所蔵

天正15年(1587)10月1日、豊臣秀吉の北野大茶湯、千利休席で用いられた茶入。下の方が、ふっくらふくらんだ形から「尻ふくら」と呼ばれます。関ヶ原合戦の褒美として、慶長6年(1601)徳川秀忠から細川三斎(忠興)に贈られたものです。三斎が、以前たわむれに「国にかえても」と欲しがったのを秀忠が覚えていたためであると伝わっています。



なんばんみずさし
南蛮水指 利休いもかしら
東南アジア(16世紀)
財団法人永青文庫所蔵

北野大茶湯で、利休尻ふくら茶入とともに用いられた水指。桃山時代に東南アジアとの貿易により、もたらされたものです。芋の形に似ているので芋頭とよばれます。

城下町八代の歴史・文化のルーツを探る

妙見祭、八代城、臥龍梅、高田焼、薏苡仁糖、肥後古流の茶道など、その由来をひも解けば必ず出てくる「三斎公」という名前。江戸時代の八代の歴史と文化に大きな影響を与えた細川三斎(忠興)はこの出身で、どのような歩みで八代へやって来たのかご存じですか。

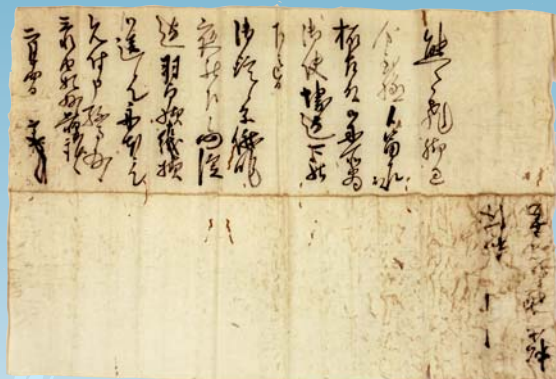
今回の展覧会は、大名細川家の足跡を文と武の両面からたどることで、城下町八代の歴史・文化のルーツ探しをしようというものです。

展示作品は、財団法人永青文庫の所蔵品を中心に、財団法人松井文庫、広寿山福聚寺(小倉藩小笠原家菩提所)所蔵品などを加えた国指定重要文化財五点、県指定重要文化財八点、市指定文化財二点を含む、総計百二点を展示。ほとんどの作品が、八代では初公開となります。



ゆうさい ふじたか
細川幽斎(藤孝)画像
慶長17年(1612)
財団法人永青文庫所蔵

細川幽斎(1534~1610)は、近世大名細川家の初代。はじめ室町幕府足利將軍家に仕えました。幕府滅亡の後は織田信長、ついで豊臣秀吉、徳川家康に従い、江戸時代の大名細川家の繁栄の基を築きました。古今伝授で知られる学者としても有名です。




せんりのきゆう
千利休 書状 天正9年(1591)2月14日
松井佐渡守(松井康之)宛 財団法人松井文庫所蔵

千利休は織田信長、豊臣秀吉に仕えた大茶人で、細川三斎や松井康之の茶の師匠です。この書状は、利休の死の二週間前に書かれたもの。秀吉の命により堺へ下り謹慎しようとする利休を、淀の船着場まで見送った三斎と古田織部への謝辞を、松井康之に言付けたものです。康之が封を切った、当時そのままの姿で伝わる貴重な書状です。

千利休により創始された楽焼。その初代長次郎の作品です。轆轤を使わない手作りで一碗ずつ焼成、柔らかな質感は侘茶に最もふさわしい茶碗です。

作品の名前である乙御前とは「おかめ」「お多福」のこと。茶碗の腰のあたりのふくらみを「おかめ」のしもぶくれした頬に見立てたものでしょうか。細川三斎の好みにより長次郎に焼かせたものと伝えています。



くろらくちやわん めい おとごぜ
黒楽茶碗 銘 乙御前
桃山時代(16世紀)
財団法人永青文庫所蔵

さんさい ただおき
細川三斎(忠興)画像
寛文10年(1670)
財団法人永青文庫所蔵

細川三斎(1563~1645)は幽斎の長男。丹後宮津から豊前中津、ついで小倉の各城主を勤め、寛永9年(1632)細川家の肥後入国に際して八代城主となりました。勇猛な武将であると同時に有名な大名茶人で、肥後熊本の文化に大きな足跡を残しました。



【歴史講座】

市立博物館講義室で午後2時から開催。お気軽に受講ください。

▼10月8日

「肥後細川家の危機管理」

講師 山本博文氏(東京大学史料編纂所教授)

▼10月15日 「豊前と細川家」

講師 永尾正剛氏(北九州市立いのちのたび博物館参事・歴史課長兼務)

▼10月22日 「細川忠利と数寄」

知られざるその御庭焼」

講師 福原透市立博物館学芸係長

▼10月29日 「平和の時代の細川家」

講師 林千寿市立博物館学芸員

▼11月5日 「細川幽斎と文芸・故実」

秀吉・家康との関係を中心に

講師 鳥津亮二市立博物館学芸員

【利用案内】
入館料 一般600円、高大生400円、中学生以下無料
※20名以上の団体は2割引
※11月3日(文化の日)は無料開館
休館日 10月11日、10月17日、10月24日、10月31日
開館時間 午前9時~午後5時
(入館は午後4時30分まで)
問合せ 市立博物館未来の森ミュージアム 3455555
<http://www.city.yatsushiro.kumamoto.jp/museum/>